

高等技術専門校新築等設計 公募型プロポーザル評価・選定講評

【第2段階審査の経過】

本プロポーザルについて募集を開始したところ県内外から3者の応募がありました。実施要項に基づき、応募者総数が5者以下であることから、全ての応募者をプロポーザル提案者としました。プロポーザル提案者3者のうち1者からヒアリング参加辞退の申し出があったことから、2者によるプレゼンテーション（ヒアリング）の後、評価・選定を行いました。

はじめに、各者の技術提案書の内容と表現等が実施要項及び提案書作成要領に沿ったものかどうかの確認を行いました。いずれも実施要項及び作成要領の失格要項に抵触しないことを確認した上で、2者を対象として審査を進めました。

評価・選定にあたっては、5名の委員による評価に入る前に、各者の技術提案書の内容についてあらかじめ順にレビュー（振り返り）した後に評価に移りました。評価は、あらかじめ設定された評価項目ごとに5段階の評価点数を記入、全員が記入後、事務局で回収し集計を行い、その結果を各委員に配布して議論を行いました。

なお、第1段階での評価点はそのまま持ち越し満点30点として換算、第2段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点70点）とあわせて100点満点で総計点をまとめました。

あらかじめ公表している評価・選定基準に基づき、順位付けを行い、その結果をもとに議論をすることとしました。順位付けの方法は以下の通りです。

- ① 総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者を上位として順位付けを行う。
- ② 1位獲得数が同じ提案者が複数いる場合は、各委員の順位点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ③ 順位点の合計も同じ場合は、上位順位の獲得数がより多い提案者を上位とする。
- ④ ②③も同じ場合は、総合評価点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ⑤ ①から④までの順位を基に委員で審議の上、設計候補者及び次点設計候補者を選定する。
- ⑥ ただし、『業務実施方針及び手法』の評価項目で各委員の評価点の平均が42点未満である提案者は、審議の対象としない。

その結果、各委員の評価点平均が42点未満の提案はなかったことから、2者を審議の対象としました。

各委員の評価結果（点数の付け方、順位付けの判断）、評価の観点及び提案に対する見方について意見交換を行った結果、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」、

「各委員の順位点の合計がより高い提案者」及び「総合評価点の合計がより高い提案者」が一致することから、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」を設計候補者として選定することが妥当であることを全員一致で確認しました。

以上から、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」である株式会社久米設計東北支社を設計候補者とし、株式会社松田平田設計を次点設計候補者とすることで合意しました。

【総評】

本プロポーザルは、県内にある高等技術専門校の5校を再編し、仙台校の敷地内に本館、実習棟及び人材育成センター等からなる高等技術専門校を効率的・効果的な校運営の観点から新たに整備するための設計業務に適した設計候補者を選定するものでした。提案にあたっては、既設の訓練科の統廃合や新たに整備する訓練科の特徴を踏まえた上で、効率的・効果的な校運営に繋がる機能の充実や既存実習棟の改修と新築する建物との共用部を含む敷地全体の合理的な建築計画がポイントとなりました。普通教室と実習場の配置計画や各訓練科のゾーニング、避難動線を考慮した各施設へのアプローチ等それぞれ特徴的な提案内容でした。また、多様な訓練科が混在し、専門的な知識も要する難易度の高い設計条件でしたが、各社共よく考察した上で丁寧にまとめられており、プレゼンテーションにおいても積極性や工夫が感じられました。

今回の高等技術専門校の新築は、若年者の人口減少の影響等を受け、再編するものがありますが、企業ニーズを踏まえた知識・技能の高度化への対応やICT、IoTの進展など訓練内容・方法の弾力的な運用を図るなど広い視野で設計することが重要になります。本校が短期課程を含め、幅広い年代で利用しやすい施設として、またものづくり企業の技術を底上げするリーダーとなり活躍できるようなスキルをここで学び、地域社会に貢献する人材育成の場となることを大いに期待いたします。

最後に、多大な労力と時間をかけて、課題に真摯に向き合い提案をされた株式会社久米設計東北支社及び株式会社松田平田設計の皆様には、判定委員会委員一同、心からの感謝を申し上げます。

【講評】

設計候補者：株式会社久米設計 東北支社

高等技術専門校の5校を統合するという点で、統合するメリットを整理した上で必要なテーマを明確にし、的確にコンセプトを考えていることが評価されました。全体計画は、「企業・地域のニーズ」に対応した『宮城モデル』を実現するために、建物を敷地南側に配置し、「プロムナード」を中心に教室及び実習場にアクセスする計画であり、車歩の分離を意識した動線が明快なものとなっておりました。日常の動線ともなる「プロムナード」を活

用することにより、イベントを開催できることや、自然な交流が生まれやすい点も評価されました。また、各訓練科の配置計画においては、各科ごとに教室と実習場を近接させ連携を強化している部分や機材の搬入等のサービスルートを確認し、安全性に配慮する提案が具体的に表現されていることが評価されました。

事業実施における体制においても、新築担当チームと改修担当チームの両チームを編成し設計を進め、連携・統合する体制についても評価されました。

ヒアリングを通して、関係団体や近隣住民等への配慮、高等技術専門校再編基本計画の理解、今後設計を進める上での柔軟性も感じられ、適切な設計に繋がれることが期待される点も評価されました。

一方で、「モノづくりピロティ」「コモンコア」「連絡・見学デッキ」で構成された空間に関しては、振動・騒音への配慮や『みえる・みられる』という環境による訓練生の学習意欲等への影響も考えられるので、今後の設計過程でより丁寧に専門校関係者と協議・検討する必要性なども確認いたしました。

以上を踏まえて、設計者選定というプロポーザルの主旨から、今後の協議と対話も含めて十分に資質があるものと判断して選定しました。『宮城モデル』の実現への意欲を持って、専門校関係者の声を丁寧に拾い、真摯に設計に向き合うことを強く期待するものです。

次点設計候補者：株式会社松田平田設計

高等技術専門校の設計に関して豊富な経験と知識があり、これまでの事例を踏まえた提案力や専門分野における社外専門家との協働、また、本事業の改修設計においてもバックアップ体制が整っていることから、組織体制が高く評価されました。業務実施方針については、ユーザーヒアリングを通じた利用者及び近隣住民への配慮や BIM・ICT を活用した設計 DX への取り組み等設計への積極性が高く感じられました。各訓練科に配慮した建築計画では、『ものづくりスクエア』を中心に周囲に各実習場を配置し、各科の教室を1カ所に集中配置させる提案が特徴的で回遊動線を活用した明快な動線計画が評価されました。

一方で、『ものづくりスクエア』を中央に配置し、イベント時の利用で賑わいの創出を提案していることは理解できるものの、平常時の活用方法や交流が生まれる場としてのイメージが十分伝えきれなかった点や、5校再編による新しい専門校の可能性を拡大するとともに効率的・効果的な校運営の追求という点において総合的に及ばず次点となりました。

令和4年12月2日

高等技術専門校新築等設計
公募型プロポーザル判定委員会
会長 石井 敏